

抗議声明

本日、高見澤横浜防衛施設局長が座間、相模原両市を訪れ、米陸軍第一軍団を改編した新司令部分遣隊のキャンプ座間への移駐を通告してきた。

2004年春以降、キャンプ座間を抱える座間、相模原両市は新司令部の移転は基地の強化・恒久化を招くとして、その移転に反対してきた。日本の軍国主義時代に半強制的に接収されて以来、70年の長きにわたって、両市は多大な迷惑と被害を被ってきた。市民も多くの不自由、度重なる迷惑、被害を押しつけられてきた。だから、この3年余、市長を先頭に市民ぐるみの反対運動が取り組まれてきたのである。

今回の通告は、両市の長年の願いを踏みにじり、市民の苦しみを恒久化するものであり、決して認めることはできない。



昨年5月の日米両政府の合意によれば、今回の分遣隊の移駐に続き、司令部本隊の移駐、さらに陸上自衛隊中央即応集団司令部の移転が計画されている。「米軍再編」の名の下に、キャンプ座間を日米同盟の要衝、広域作戦司令部として様変わりさせようとしている。対テロ戦争の大義名分で始めたアフガン戦争、イラク戦争は今や泥沼化の様相を強めている。新司令部のキャンプ座間への移転は、こうした米国の誤った戦争政策に日本が今まで以上に組み込まれることを意味するものだ。

ここ神奈川では、横須賀基地への原子力空母配備の受け皿づくり、浚渫工事の開始、池子米軍住宅の増設計画、厚木基地での違法爆音の継続と、基地の強化・恒久化の動きが目白押しである。どれもこれも米国の軍事戦略・戦争政策を支えるものばかりである。もう基地の強化・恒久化は懲り懲りである。



私たちは改めて、日米両政府にキャンプ座間への新司令部の移駐計画の撤回を求める。

撤回しないのであれば、今まで以上に「新司令部歓迎せず」の声、運動を大きくしていくつもりだ。この3年余、私たちは新司令部の移転など基地強化に反対する行動を重ねてきた。3度にわたるキャンプ座間、相模補給廠への包囲、人間の鎖行動。抗議ハガキ運動、度重なる座り込み、監視行動等々である。今後も引き続き、「新司令部歓迎せず」の意思のもと、新司令部本隊の移駐、陸自中央即応集団司令部の移転を阻止する行動を強めていく決意である。

2007年8月14日

神奈川平和運動センター
基地撤去をめざす県央共闘会議
第1軍団の移駐を歓迎しない会